

学校法人 中部学園
中部楽器技術専門学校

平成29年度自己点検・自己評価について

本校では、平成25年度に文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に自己評価に取り組み、教職員が本校の理念、目標に照らして自らの教育活動を評価し、改善することによって、職業教育の質の補償・向上に組織的に取り組みました。また、平成27年3月に文部科学省における職業実践専門課程の認定を受け、平成26年度に自己点検・自己評価を行い、更なる企業等との連携を深め職業教育の充実を図るとともに、平成29年度も実施致しました。

1 対象期間

平成29年4月1日～平成30年3月31日

2 実施方法

学内に「自己点検・自己評価委員会」を設置し、委員会を中心に実施しております。

「自己点検・自己評価委員会」

委員長	角堀雅信	校長
委員	早川昌幸	進路指導部長
	中村 大	教務課長
	杉浦 彰	総務部主任
	服部幸弘	財務担当

3 自己評価項目

自己評価は、以下の12項目について実施しています。

- (A) 教育理念・目的・人材育成
- (B) 学校運営
- (C) 教育活動
- (D) 生徒指導等
- (E) 学修成果
- (F) 生徒・学生支援
- (G) 教育環境
- (H) 生徒・学生募集
- (I) 財務
- (J) 法令等の遵守
- (K) 社会貢献・地域貢献
- (L) 国際交流

4 評価項目に対する評価

評価は、1～4の点数で記載しております。

4：適切 3：やや適切 2：やや不適切 1：不適切

平成29年度
自己点検・自己評価報告書 目次

表紙

平成29年度自己点検・自己評価について

- 自己評価項目 (A) 教育理念・目的・人材育成像
(B) 学校運営
(C) 教育活動
(D) 生徒指導等
(E) 学修成果
(F) 生徒・学生支援
(G) 教育環境
(H) 生徒・学生募集
(I) 財務
(J) 法令等の遵守
(K) 社会貢献・地域貢献
(L) 国際交流

平成29年度

自己点検 自己評価報告書

平成31年2月

学校法人 中部学園

中部楽器技術専門学校

A、教育理念・目的・人材育成像		評価点
A-1	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構造等が生徒・関係業界、保護者等に周知されているか	4
A-2	各学科の教育目標・人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

A-1	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構造等が生徒・関係業界保護者等に周知されているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	学校の教育理念、目的、育成人材像、特色、将来構造については、学生保護者にはオープンキャンパス等の講習会、入学式及び保護者通信等で周知されている。業界関係者等には、毎年開催されるオーナー研修会等で挨拶の場において周知されている。	4
	今後の課題とその解決方法	
参考資料	学生パンフレット、学生募集要項、保護者通信	
A-2	各学科の教育目標・人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	業界のニーズを発掘する場所として「教育課程編成委員会」「学校関係者評価委員会」における委員の方々からの意見を取り入れ、本校の「カリキュラム編成委員会」において、業界のニーズに沿った教育課程の編成を行っている。	4
	今後の課題とその解決方法	
参考資料		

B、学校運営		評価点
B-1	目的に沿った運営方針、経営方針に沿った事業計画、体制等が策定されているか	4
B-2	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

B-1	目的に沿った運営方針、経営方針に沿った事業計画、体制等が策定されているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	目的に沿った運営方針、経営方針に沿った事業計画は策定されている。事業計画においては、年度初めの全職員会議の場において教職員全員に周知している。事業計画に基づいて各部署、各個人において目標を立てている。目標については、個人面談等で進捗状況を確認している。	4
今後の課題とその 解決方法	事業計画に沿った目標意識は向上しつつある。今後は更なる理解と目標遂行に向けてのスキルアップが必要である。	
参考資料	事業計画書。	
B-2	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	情報システム化等による業務の効率化が図られているかについては、学籍、成績、欠席の管理システム 入学希望者管理システム、就職先企業管理システムがあり、それぞれのネットワークは情報セキュリティ の理由でアクセス権を区分している。セキュリティの強化も行われた。	4
今後の課題とその 解決方法	コンピューター業界は日進月歩であり、更なるセキュリティの強化が必要である。	
参考資料		

C、教育活動		評価点
C-1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
C-2	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

C-1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	教育課程編成委員会を開催し、委員からのご意見を参考に、毎年、教育課程の編成を行っている。 各学科においては、実習カリキュラムに重点をおいた編成となりつつある。	4
	今後の課題とその 解決方法	
参考資料		
	教育課程編成委員会議事録	
C-2	職員の能力開発のための研修等が行われているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	教員研修においては、生徒指導の研修を「TCI研修」、実習指導の研修は業界人における研修を 実施している。「TCI研修」を年6回実施した。実技に関する研修は、各学科において個別に開催を 実施した。また、月に1回開催される「教員会」の場において学生指導に対する意識の統一を図っている。	4
	今後の課題とその 解決方法	
参考資料		
	研修においては、マンネリ化の無いよう新たな研修の導入も必要である。 また、多様に変化する社会、業界の現状に対応できるような研修も考えていく必要がある。	
	「TCI研修資料」	

D, 生徒指導等		評価点
D-1	基本的な生活習慣の確立の為に取組が行われているか	4
D-2	生徒の安全管理の為に取組が行われているか	3

D-1	基本的な生活習慣の確立の為に取組が行われているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	毎年度実施している新入生合宿・新年度オリエンテーションの場において、基本的な生活習慣の指導や学生毎に年間を通しての目標設定を掲げて取り組んでいる。また、各クラスごとに月・水・金曜日のショートホームルーム（ST）において学生の状況把握と適切な指導をしている。	4
	面談を通し、学生個々に細かい指導をしていくことが必要である。また、課長をはじめ学科全体で情報を共有し、関係する教員が共通認識を持つことが大切である。	
今後の課題とその解決方法	面談を通し、学生個々に細かい指導をしていくことが必要である。また、課長をはじめ学科全体で情報を共有し、関係する教員が共通認識を持つことが大切である。	
参考資料	新入生合宿の資料、新年度オリエンテーションの資料、出席簿、週間報告書	
D-2	生徒の安全管理の為に取組が行われているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	防災体制は構築されている。施設の点検も専門業者に委託し安全性を確立している。	3
	防災訓練についても毎年実施している。遠方からの学生が多いことから、民間の学生寮や信頼のある不動産業者を斡旋している。アルバイトについては、許可制をとっており就業先や勤務時間等の確認や指導もしている。	
今後の課題とその解決方法	防災については、地震や火事等に備え、学生教職員の防災意識を高める必要があり、危機管理マニュアルの作成が急務である。	
参考資料	防犯管理点検記録、学生寮案内パンフレット、学生アルバイト届	

E、学修成果		評価点
E-1	就職率の向上、退学率の低減が図られているか	4
E-2	卒業後のキャリア形成への効果を学校の教育活動の改善に活用しているか	4

E-1		評価点
現状認知・評価等 と その根拠	全学科とも進路ガイダンスにて進路を決めるための心得や企業の見方などを説明。ミスマッチが起きないように勧めている。就職活動の前年時に意識アンケートを詳しくとり、希望の把握とともに個別に抱える悩みや課題点を早期につかんでおり、個別面談にて一人ひとりに応じた指導を行い、就職率の向上を果たしている。	4
	学業不振者や生活素行不振者の対応を早期に行い、学生の取り組むべき課題を明確にする必要がある。	
	担任の面談が学生の退学意識が固まった段階で実施されて報告書が上司に回覧されてくる傾向にあり、早期の面談実施が課題である。	
参考資料	就職実績一覧（当該年度のもの）	
E-2	卒業後のキャリア形成への効果を学校の教育活動の改善に活用しているか	
現状認知・評価等 と その根拠	卒業後1年経過時にアンケート調査を行い、仕事内容や仕事状況、さらにはそれに対する自分自身の不足事項が何であるかを振り返り、本校に知らせてくるよう働きかけている。	
	進路指導には生かされているが、教務部でのカリキュラム改善変更には生かされるケースが少ない。	
	今後の課題とその解決方法	教務部としての卒業生アンケート実施を行うなど、卒業後の課題を把握し、卒業生研修内容を選定することや、在学中の習得内容に盛り込むなどの工夫は必要。
参考資料	なし。	

F、生徒・学生支援		評価点
F-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
F-2	高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

F-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	進路指導に関する年間計画を立て、1年次の秋季から学生指導を順次実施。就職に対する意識付けのガイダンスから始めOB・OG講話の実施や企業オーナーを招いての講話を実施して自らのキャリア形成プランを考える機会を多く持っている。個別面談や任意の面談対策講習への参加、履歴書指導なども順次行い、希望職種への就職を目指している	4
	他分野にわたって就職を考えている学生に対しては、ハローワークの利用をそくし、本校だけでは知りえない求人の活用ができています。	
	特になし。	
	就職支援室年間スケジュール	
今後の課題とその 解決方法		
参考資料		
F-2	高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	AO入試にエントリーして早期に入学許可となる生徒に対しては音楽や楽器、基礎学力確認のための課題を与え、入学前に提出させてチェックする体制作りをつくりあげている。これにより入学前教育を通して職業意識を早期に立てて、キャリア教育につなげるようにしている。	4
	入学予定者の学力レベルや音楽知識の差があるので、レベルに応じた課題の選定が必要である。	
今後の課題とその 解決方法		
参考資料	入学前提出物	

G、教育環境		評価点
G-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
G-2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4

G-1		評価点
現状認知・評価等 と その根拠	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
	教育目標の効果的な達成を念頭に置き、学校内の設備の巡回を行い安全な教育環境を整備している。	
	今年度の9月より新館を建築し教育環境を整えた。	
平成31年3月には新本部棟が完成しさらに教育環境を充実させていく計画である。		
今後の課題とその 解決方法	4号館の老朽化が目立つとともに、学生数の増加に対応できるような校舎の増築が必要である。	
参考資料	新本部棟建築計画	
G-2		評価点
現状認知・評価等 と その根拠	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4
	学外の実習施設として、湯の山研修センターを構え毎年、学生が集団行動の大切さ、技術習得を行っている。インターンシップ実習においては、ピアノ調律科が名古屋経済大学インターン、管楽器リペア科が名古屋市小中学校インターンを実施。海外研修では音楽サービス創造学科がアメリカ研修、弦楽器製作科ギター・クラフトコースが中国研修を実施している。	
	企業インターンシップ実習の開拓と学生の積極的参加。海外研修においては、事前学習の強化が必要である。	
今後の課題とその 解決方法		
参考資料	湯の山合宿研修資料、インターンシップ実習記録報告書、海外研修資料報告書。	

H、生徒・学生募集		評価点
H-1	高等学校等に接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	4
H-2	学生募集活動において資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	4

H-1	高等学校等に接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	入学者の比重の大きい東海、北陸、関西地区を中心に高等学校訪問を行い、情報提供に努めている。 「中部楽器通信」というDMにて本校の学習内容や受験情報を高等学校にも発信している。	4
今後の課題とその 解決方法	音楽関連の部活が活発な高校など、地域性だけではない要素での高校選別が必要。	
参考資料		
H-2	学生募集活動において資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	HP、リーフレット、各業界のWEB等にて正確な情報の伝達はできている。	4
今後の課題とその 解決方法	学生広報メンバーに日々の授業取材や工場見学、合宿研修などのレポートを作成させるなど、学生目線 での捉えを情報ツールに興して発信するなど、同世代での感性を重視した展開が必要。	
参考資料		

I、財務		評価点
I-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	4
I-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4

I-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	中長期的な財務基盤においては、本法人の正味財産及び基本金もともに増加しており安定している。	4
	監査体制については、監事による監査が確立されており理事会、評議員会でも監査報告がされている。	
	財務情報の公開については、HP上に掲載し、学生、保護者はもとより一般にも情報の公開・発信を行っている。	
今後の課題とその 解決方法	財政基盤の安定については、18歳人口の減少により学生募集が苦戦する中においても、本校の独自性を前面に押し出し安定した学生数の確保が不可欠である。	
参考資料	決算書	
I-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	予算については、予算編成における基本方針に基づいて編成されている。評議員会、理事会の承認を得て決定されている。	4
	また、会計については「学校法人会計基準」に従って適正な会計処理をしている。	
今後の課題とその 解決方法	予算を編成するにあたり、学生数の確保が大きな分岐点になる。今後も安定した予算を編成するためには長期的視野にたち、募集活動を行っていく必要がある。	
参考資料	予算書	

J、法令等の遵守		評価点
J-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
J-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3

J-1		評価点
現状認知・評価等 と その根拠	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
	法令や設置基準の遵守については、学校法人として適切に実施、管理されている。 関係省庁への報告等においても適切に実施されている。	
今後の課題とその 解決方法	コンプライアンス（法令順守）の充実を図る時期にきており、全職員の理解と意識向上だが更に必要となる。	
参考資料	各種規程等	
J-2		評価点
現状認知・評価等 と その根拠	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
	個人情報保護、特定個人情報保護については、学内で「個人情報保護規程」「特定個人情報に関する取扱い規程」が定められており、学外への個人情報の流失を予防している。なお、学生に対しては入学時のオリエンテーション等で説明をしている。	
今後の課題とその 解決方法	学生については、入学時のオリエンテーション等でも説明はするが、「パソコン」「携帯電話」等を使っての情報流失を防止するため各担当が再度徹底する必要がある。	
参考資料	個人情報保護法に関する規程等	

K、社会貢献・地域貢献		評価点
K-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
K-2	生徒・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4

K-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	毎年秋に実施している学園祭においては、様々な企画に地域の方々にも来校、参加をいただいております。また、地域の交流ができています。昭和区役所とは地域活性に向けての協力提携を結ぶことができました。	4
今後の課題とその 解決方法	従来の活動を継続しながら学校の持つ知的財産を活用して社会、地域への積極的な参加をしていく情報発信が必要である。	
参考資料	学園祭資料、昭和区民祭り資料	
	昭和区役所との提携書	
K-2	生徒・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	対外窓口としてボランティア係（教員）を設置し、諸団体からのボランティアの申し込み受付を行っています。老人福祉施設、児童養護施設、障がい者支援施設を中心とした演奏会、ピアノ調律等に取り組んでいます。また、国際交流、社会福祉支援、地域貢献活動等の様々な分野で活動を行っています。	4
今後の課題とその 解決方法	今後は学校の持つ知的財産を活用し、従来の活動分野を継続しながらより積極的なボランティア活動を支援していく必要がある。	
参考資料	ボランティア活動記録	

L、国際交流		評価点
L-1	留学生の受入・派遣について戦略を持っているか	4
L-2	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4

L-1		評価点
現状認知・評価等 とその根拠	留学生の受入・派遣について戦略を持っているか	4
	積極的な留学生募集を目的とした活動はしておらず、留学生自身が調べて本校に問い合わせをしてくるのみに限定した募集状況である。日本人の入試と同様の入試を課しているため、日本語能力の習得が応募以前に備わっている必要がある。	
今後の課題とその 解決方法	中国をはじめとするアジア諸国の楽器販売増に呼応する形で、とりわけ中国の教育機関から連携を希望する声が高まっている。具体的な受け入れ方法や指導体制作りを練る必要がある。	
	参考資料	
L-2		評価点
現状認知・評価等 とその根拠	毎年、作成する就職実績一覧表の開示や進路指導職員の起業訪問実施での情報開示で、国内企業のほとんどが本校の教育水準の高さを認識している。事実、本校に寄せられる求人数も毎年増加しており	4
	毎年秋に行う企業オーナー向けの研修会では多数の企業が参加され、本校の情報を得たがる方が多い。	
	業界関係者から海外業者への口コミも日常的に行われているようで反応も増加している。	
今後の課題とその 解決方法		
参考資料		